

区内に住み、働き、学ぶ人を対象にした千代田区の平和事業

千代田区と会が懇談

東京非核政府の会・三栖義隆事務局長は5月24日、千代田区を訪れ、平和行政を所管する同区の国際平和・男女平等人権課長の伊藤 司氏、同課の国際平和担当主査の土橋和也氏と懇談し、同区がすすめる平和事業について聞きしました。

千代田区は、1995 0 (平成22) 年3月に加(平成7)年3月15日に 盟しました。

「国際平和都市千代田区宣言」(次頁に全文)で、

「今は自分たちだけの平和と安全を考える時代ではない・・・国際都市千代田区に住み働き学ぶ私たちは世界の人びとと連携して核兵器をなくし平和な世界を築き上げよう」と呼びかけました。

また平和市長会議(事務局＝広島市)には、201 右から土橋氏、伊藤氏、三栖氏



千代田区には、多くの官公庁や企業、学校などが集中し、区内在住者は約5万人ですが、昼間人口は85万人をこえる大きな自治体です。

沖縄・広島・長崎を訪ねる「平和使節団」

昨年は3倍の応募者、70歳代の人も参加

「国際平和都市千代田区宣言」にもとづいて毎年実施されている「平和使節団」。使節団の訪問先は、さきの戦争で大きな被害を受けた沖縄や人類史上はじめて原子爆弾が投下された広島と長崎です。

千代田区の平和事業は在住区民だけでなく千代田区在勤・在学のすべての人を対象にすすめています。

ました。

応募者が少ない年もありましたが、担当職員の丹念な学校訪問などの努力も実り、昨年の応募者は定員の3倍でした。

どんな心構えで派遣に望むか

事前学習会で話し合い

使節団は、各訪問地ごとに結団式と「事前学習会」をひらきます。

事前学習会では、「平和使節団」にどんな心構えで臨み何を学ぶのか

それぞれ個人や使節団全体のテーマを話し合い、目的意識をもって現地を訪ねています。

昨年の広島への使節団も事前勉強会では、学ぶテーマとして「心で感じ残したい」「次世代になく架け橋になる」「忘れてはいけない」などが

「被爆者の心を残す」にきめ現地を訪ねました。ある高校生は帰京後の報告書に「語り部さんには、

私たちに伝えるために辛い体験を思い出させてしまいました。だからこそ、原爆の事実を残すだけでなく、「被爆者の方の心を伝える」ことが重要です」と綴りました。

平和式典への参加、競争・被爆体験者と交流

現地の広島、長崎では市主催の「平和式典」に参加、沖縄では激戦地跡などを訪問し、さらに各現地では被爆・戦争体験

者との交流や資料館見学などが計画されています。

子どもたちや区民の平和の願い託す千羽鶴

使節団には区内の児童館などの子どもたちや区民が折った千羽鶴が託されます。

千羽鶴を折るのは従来は児童館の子どもたちだけでしたが、2010年(平成22)年からは、区民にもひろく平和や核兵器廃絶を考えてもらう機会にしたいと、区主催のイベント会場はもとより、町会、商店街のイベント会場でも千羽鶴を折ってもらうっています。

最近では既に折ってあった千羽鶴を届ける区民もいて、区民のなかにも根づいてきました。

こうした子どもたちや区民の平和への想いを込めた「千羽鶴」は使節団によって沖縄、広島、長崎の平和遺跡などに献架されます。

使節団―報告会や報告書で成果を発表

使節団が帰京すると報告会とともに、報告書も作成され、その成果がひろく紹介されます。さらに使節団参加者は、翌年の区の平和事業にも

参加して平和メッセージを述べるなど区の平和事業に貢献しています。また例年7月にひらかれる「戦没者追悼式」には、区長の発案で平和使節団に参加した高校生が平和メッセージを伝えて

青年対象のちよだ地球市民ツアー

区民参加の海外事情調査―昨年度はカンボジア

他の自治体には見られない千代田区のユニークな平和事業のひとつが「区民参加の海外事情調査(国際協力体験事業)」。

毎年、区内在住、在学の高校生以上、30歳未満の青年12名をアジア地域の国際協力がおこなわれている現場に派遣します。

千代田区は、この活動を通じてその国の現状や国際協力活動の現場にふれ、環境・平和・人権など人類が共通して抱える課題を考え、積極的に行動する人材育成をすすめ

事前・事後の綿密な研修会

昨年12月には、カンボジアに12名の青年が派遣されました。参加者は事前に「地球市民講座」(4回)に参加しカンボジアの事情・歴史・文化を学び、説明会・オリエンテーションなどの6回の事前打ち合わせ会に臨んで現地を訪問しました。

カンボジアの現地では、

シリアアップ、バットバン、ブノンペンを訪れ教育支援を受ける小学校や地雷撤去後に建設された中学校、地雷被害者へのインタビュー、女性の自立支援を行うNGOが運営する保育所などを訪問しました。帰国後には、事後研修会(「地球市民講座」と報告会)がもたれます。こうした成果は、冊子

「平成24年度千代田地球市民ツアー」(写真左)にまとめられました。冊子には感想文や事前学習会や現地で学んだカンボジアについての歴史、文化などが詳しく紹介されています。

平和展示会・ミニミニコンサートなど

多くの人たちの命を奪った1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲。千代田区は毎年、3月にこの日を忘れず世界の恒久平和を願って様々な平和事業を行っています。区役所区民ホールでは、平和展示会、ミニミニコンサートが開かれます。

今年3月におこなわれた東京大空襲資料写真パネル展には、空襲直後の千代田区のまちなみ、風景などの写真や資料が数



トは、ヴァイオリン植村太郎さんとピアノ澤田和音さんの演奏がおこなわれました。

千代田区戦没者追悼式

毎年7月13日に千鳥ヶ淵戦没者墓苑で戦没者追悼式がおこなわれます。先の戦争で亡くなられた方への追悼と世界の恒久平和を祈ります。式典には区内中学校の吹奏楽部の演奏もおこなわれます。

三栖事務局長が謝意と要望を表明

懇談の最後に、三栖義事務局長は、千代田区の平和事業の内容を私たちの運動でも力にしていきたいと謝意を述べました。さらに三栖氏は、平和市長会議加盟の都内各自治体が相互に協力して核兵器廃絶に大きな力を発揮して欲しいこと、さらに日本非核宣言自治体協議会にも参加し、平和事業をいっそう前進させて欲しいと述べました。

国際平和都市千代田区宣言

地球は 生命が息づく かけがえのない星
この地球を 平和と希望にみちた
輝く星にしよう
過去 私たちは 戦争を経験した
多くの人びとが傷つき 犠牲となった
二隻と戦争が起こることのないように
かたきをい いつまでも 後世に伝えていこう
現在 世界の各地で まだ争いがある
釘はで 苦しんでいる人びとがいる
地球環境の破壊が つづいている
今はもう自分たちのだけの平和と安全を
考える時代ではない
国際都市千代田に 住み 働き 学ぶ私たちは
世界の人びとと 連携して 核兵器をなくし
平和な世界を築きあげよう
未来に向かって 世界の人びとと 友好を深め
同じ地球の仲間として お互いを理解し合おう
私たちは 世界の恒久平和を 実現するために
積極的に 行動することを
ここに宣言する

平成7年3月15日

千代田区

